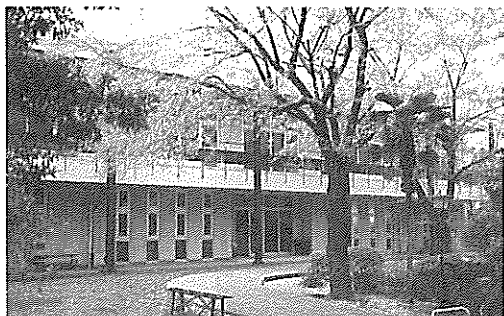


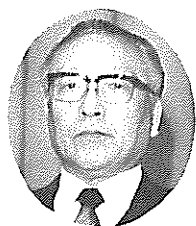


CBC

ニュース

中央聖書学校

染井吉野が満開の駒込の山に、新しい献身者が登って来ました。神の賜物である春の象徴として桜の花びらが舞って、彼らを歓迎する風情があります。この若者たちは、同じ世代の人々の中から選ばれて、神の召命を受けて、その信任に応えるため、学びと訓練を受けるべく、中央聖書学校の門をくぐった人達です。それは、極めて主観的な体験である「召命」を、客観的な事実とする厳かな機会とも言えましょう。そして、神の普遍的な救済の業における働き人（リーダー）としての準備を整えることを唯一の目的としています。かつて、神の民の解放（出エジプト）という大事業に召し出されるモーセが、ミデヤンの荒野で体験した出来事を想起させられます。神はその荒野の一隅にご自身を顕わされることによって、モーセの召命を具体化し、その使命を明確にして派遣されました。エテロ（舅）の羊の群を追っていたモーセは「荒野の奥」へ導かれました。



校長 佐布 正義

召命と任職の間

〈入学式メッセージ〉

それは、結果的に、モーセにとっても、イスラエルにとっても「神の山」と呼ばれるようになる「ホレブ」の山でした。しかし、もしモーセが神の召しに応じなかったならば、単に荒野の奥でしかありません。ここで主は、モーセに「燃えるしばの炎」をもって注意を引き、彼の好奇心を捕え「大きな見ものを見、また「なぜ...かを知ろう」とさせられました。こうして神はモーセに直接語りかけられました。神はしばの中から「モーセよ、モーセよ」と名指して呼ばれ、重要な事柄を示されました。その第一は、「足からくつを脱げ」という命令であり、「その場所は聖なる地だから」という点です。これはまさにモーセ自身と神の関係を明確にする点です。神の前における人間モーセの自覚を促す神の御言葉です。神が臨在を顕される処は「荒野の奥」であつても聖地であり、神の山です。駒込の山もこの関係において聖なる場所となります。

ます。

第二に神は、ご自身を「アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神」として顕わされました。これは時間を超越する神が、歴史の中に介入して救済の業を進められる神としての「主」であることを示し、アブラハムと明確な「契約」を結ばれ、その契約を代々履行して来られた神であることを強調しています。また、他のいかなる「存在」とも明確に区別される主なる神がみずから任職されることを明らかにしています。今日に於てもすこしも変わらないところなのです。

第三に神はモーセの派遣に対して最も強力な「しるし」を与えられました。民の救済と神に仕える民の形成に不可欠な「しるし」とは「わたしは必ずあなたと共にいる」という約束でした。これはどまぎれの無い保証が他にあるのでしょうか。こうして召しと任職を明確にする体験をこの山で持つ人を求めます。

「モーセは妻の父、ミデヤンの祭司エテロの羊の群れを飼っていたが、その群れを荒野の奥に導いて、神の山ホレブにきた。」

出エジプト記三章一節

1 週間のスケジュール

日曜日	月曜日	火曜～土曜	コメント
各教会派遣	6:00 早起天	5:30 早起天	神との出会い
	7:00 起床床	6:30 起床床	新しい一日
	:05~25 掃除	:35~55 掃除	皆で美しく
	:30 ラジオ体操	7:00 ラジオ体操	体をほぐして
	:35 朝食	:10 朝食	今日の活力を
	8:30~9:05 チャペル	8:20~9:05 チャペル	神に栄光あれ!
	9:30~12:00 作業	9:15~10:10 授業 I	新しい真理との出会い
	12:00~13:00 昼食	10:20~11:15 授業 II	〃
	13:00~ 自由	11:25~12:20 授業 III	〃
		12:20 昼食	ホットー息
		13:10~14:05 授業 IV	新しい真理との出会い
		14:05~16:55 自由	買い物、各部の活動 etc
		16:55 夕食	だんらんの一時
	19:00 門限	18:30 門限・自習	明日に備えて
	22:30 点呼	22:30 点呼	「4号室元気です!」
	23:00 消灯	23:00 消灯	おやすみなさい。

編集後記

◎ 時期はずれの雪にもめげず、二期生が植樹したといわれる桜の木が今年も駒込の山に色を添えてくれました。一五名を送り出した卒業式には間に合いませんでしたが、入学式の頃には染井吉野の花びらの絨絨が校庭一面に敷きつめられ、九名の新入生を迎えることが出来ました。卒業証書を手に入れた地に下りて行った一人一人は、「切瑳琢磨」「熱慮断行」のふたことを残して勇退された弓山喜代馬名譽校長のダイナミックな声をまだ耳に響かせていることでしょう。

一方台湾からの学生も加えて、中央聖書学校の門をくぐってきた女性二人、男性七名の新入生は、ホレブの山におけるモーセの神との出会いから、主観的な召命体験を客観的事実とする必要を説かれた佐布正義新校長のメッセージに、召されたことの感動を新たにしようです。

◎ 二代目の校長佐布師の采配のもとに、本文中で紹介されている教師の新しい顔ぶれが加えられて、一九九二年度の新学年が始まりました。世界の急速な動き、また日本の多様化された社会情勢に対応できる神学教育をとい

う観点から、中央聖書学校の規則が一部改正されました。大学レベル教育の要といわれる図書室の管理システムもコンピューターの導入によって大幅に改革されつつあります。英語だけでなく授業するクラスの設置も、国際化を目指した画期的な試みの一つです。そしてチャペルは聖霊のお取扱いにすべてを委ねて霊性の高揚を真剣に求める祭壇であり、御霊による大いなる収穫の備えに万全を期する場でもあります。教師・学生がペンテコストの霊的な特性を十分生かして主に用いられる器となれますように、日毎のお祈りにお加え下さい。

◎ 皆様方の心からのご意見、ご質問など編集部にお寄せ下されれば幸いです。

(K)

発行・一九九二年七月一日
事務局〒170 〇三三九 一八四九二五
東京都豊島区駒込二一五 〇
中央聖書学校
編集者 北野 耕一
編集委員

や教団総会などがある場合、学生の奉仕を円滑に、かつ適材適所に人を配置するといったことも行っています。働きは一見地味な物ですが、祈りと献金によって与えられた物を管理し、長持ちさせるということは、将来教会を委ねられる時に、小さな事に忠実であるべきということを実践で学ぶ非常に訓練になる部です。

さらに共に助け合い、また仕え合っていくことを学び神学校生活を、リードしていくという、献身者訓練に必要不可欠な部です。

音楽部の活動方針として「賛美のより深い学びと実践を目指す」ことをあげています。

主な活動内容として、

①音楽セミナーの実施。(これは講師をお招きしての実践的学びも含んだものです) ②楽譜の整理。③OHPシートの整理、及び操作担当者表作成。④OHPシート作成。及び登録と台帳更新。⑤新曲入手のみのパイプ役。(アッセンブリー以外から入手できる様に) ⑥器材の購入、及び管理。などです。

私たち音楽部は、この様に、毎日のチャペル時、学生祈禱会、学生伝道集会においての賛美が、より主に喜ばれ

音楽部

るものとなることを願っています。

北野耕一先生を顧問に迎え、今、図書館は大きく変わろうとしています。単なる本の倉庫ではなく、生きた本来の図書館、利用者がその恩恵を十分に感じることにできる図書館へと変貌しようとしているのです。

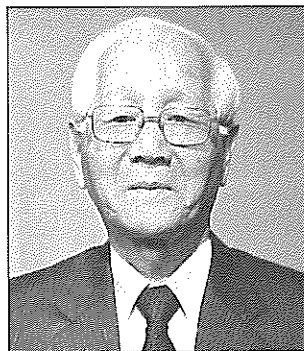
まず手始めとして、以前女子祈禱室として利用していた部屋を閲覧室兼自習室に、そして男子祈禱室だった部屋を書庫に改造して、図書すべて移動しようとしています。それと並行して、図書の分類方法を全く新しくして、全図書の情報をコンピューターに入力して、管理・検索がコンピューターで行えるようにする計画です。

現在は移行期間でかなり混乱した状態ですが、将来的には、限られた予算の中で利用者の必要とする情報を提供できるようにするために、本校独自の蔵書(他の図書館にはなく、本校にあればその関係の図書があるという分野をつくる)を集め、他の図書館との協力体制をとれるようになればと考えています。

図書部

るものとなることを願っています。

弓山師 勇退メッセージ



名誉校長 弓山喜代馬師

去る二月二十五日、チャペルにおいて、弓山校長から、勇退前に神学生一同に力強いメッセージが語られた。

詩篇九〇篇一節から一〇節の中から大きく分けて二つのことが語られた。

一つは、「切磋琢磨」

「鉄は鉄によってとがれ、人はその友によってとがれる。」(箴言二七章一七節)にあるように、自己錬磨の為に本を相手に精読し、その歴史上の人物を学びとること。さらに、敵対意識ではなくライバル意識を持って、学生同志、教師と学生、そして自分とイエス様との魂と魂のぶつかりあいの中で錬磨される必要性を語られた。

二つ目は、「熟慮断行」

考えることにおいては、ゆっくりかたつむりのように、行動することにおいては鳥に、それもすばやいわしのようになりなさい。

腰を据えてじっくり考えた後、これだと思った事柄は即実行する。浅薄な思考でなく、神の前に膝をかかめて深く祈り、そして行動に移すことが大切であると語られた。

これらのことによって私たちは「学び」を継続し、成長し続けて行かなければならないということを強調された。今年九十二才を迎えられる師の力強いメッセージに「ただこの一事に務む」と語ったパウロの言葉を想起させられ、一同改めて目標を目指して邁進し、献身の思いを熱くさせられた。

弓山師がメッセージで語られたドイツ語による愛唱句

Ein Messer wetzt das andere, und ein Mann deneandern. (Sprüche 27:17)

切磋琢磨
Erst wägen, dann wägen.

熟慮断行

聖書学校の展望



中央聖書学校理事長

広瀬 利男

戦後、一九四九年に中央聖書学校が創設されて四二年、戦前の聖霊神学院時代を数えると、実に六二年の歴史を経てきた。揺籃時代、夜間神学塾から始められ、戦後、駒込に現在の土地を取得し、中央聖書学校が開校された。

アメリカアッセンブリーをはじめとして、外国の多くの兄弟の援助で支えられてきたが、一九六五年頃完全に自給に踏み切る時代を迎えた。

一九七五年に至り中央聖書学校は、カレッジ型のコース編成に変革する時を迎えた。創設期より一九五五年までを基礎確立期、一九五六年―一九七五年を発展期、そして一九七五年から今日までを充実期と、時代区分ができると思われる。弓山喜代馬前校長の勇退

によって、一つの時代が画され、四二年にわたって築かれてきた伝統をもとに、研究科をコースを含む神学校セミナーに、発展しようとしている。私たちに課せられた使命はあくまでも、宣教する伝道者の養成であり、教会を建て上げる牧者の育成にある。一方、神学校は、教育の機能と、研究の機能があり、伝道者を養成するともに、変化する時代に適切な弁証と護教について絶えず研鑽を積み、研究を深める働きを担っていつてこそ、教会を支援し、伝道を伸展させていくことができる。神学校と教会は一体的であって、分離してはならない。教育の中心は「教会に仕える神学」でなければならない。戦後一三教会から始められた日本アッセンブリー教団は、今や一七六教会を数えるに至っている。この発展は、神学校の存在と不可分である。神学校の充実、より多くの献身者が起こされることこそ、二一世紀への飛躍の鍵となる。一九九九の目標とともに、中央聖書学校が世紀末までには、学的にも、霊的にも、より高い評価を得る神学校にしようと、理事会は努力している。全教会の祈りと協力、支援無くしてこれは実現なしえない。教団全教会が一九九〇年になって後援くださることを切に願うものである。



各部活動紹介

伝道部

伝道部は、学生全体で行う学生伝道集会の企画・運営をする機関です。神学校における実践的学びの一角を担っています。今年度からは司会・メッセンジャー、路傍、訪問伝道、チラシ作製という研究グループをつくり各個人の自覚と重荷とに根ざした活動を行っています。各研究グループの関連は司会・メッセンジャーからの依頼を受けて、伝道集会でのテーマや御言・内容に応じたチラシ作製、路傍案内、訪問活動等を中心として伝道集会に一人でも多くの方を導こうとしています。その他にも各グループがそれぞれ独自の企画や活動方針を立て、自由に活動していく面も持っています。十年一日の如き伝道を繰り返して行くだけではなく、もし時代時代における神の新たな導きがあるのなら、今の時代や人に合う伝道方法を探り求めてみたいと願っています。

運動部

運動部では、「学生の自己健康管理（肉体的と精神的）を援助する」とい

う方針のもとに活動しています。日常生活においては、日頃運動不足になりがちな学生に、健康管理のための情報を提供したり、ワンポイントセミナーを開いたりしています。また、毎朝のラジオ体操の徹底を図っています。その他、初夏にはスポーツ大会、秋にはハイキングを企画、運営しています。これらは、つい学校にこもってしまう学生にとっては、気分転換になり、また学生どうしの親睦を深める良い機会となっています。運動部についても運動をする訳ではなく学生の気分をリフレッシュするチャンスを与えるための企画をする部です。ですが、部員一同も、楽しんでいろいろなアイデアをだしあつて活動しています。

作業部

作業部は、学校内や日々の生活の場である寮内を、私達学生一人一人が美しく清潔に住みよいものとなるようにすることをスローガンに掲げて活動しています。主な働きとしては、校内の美化、作業日の作業及び日常生活における奉仕分担の割当て指導、作業用具の管理、学校及び寮内の備品管理・保安、などがあります。その他、聖会

信仰の目で見る

中央聖書学校

ダビデ・ハイムス師



旧約聖書の歴史書にでてくる「預言者のとがら」はイスラエルに置ける異教の発展の最中に生まれ、育った。この「預言者の仲間」は合同生活をし、バアルにひざまずかない者達と立って、預言者の働きをしながら活きた。奇跡は勿論、預言は絶えず、主の名に王を立て、王位を破壊す、聖なる戦いに挑む者は預言者のとがらにふさわし者である。しかしそれだけではない、ある学者、Campbellによればこの預言者のとがらは書記の働きもし、エリヤとエリシャ物語を保存して、後に来る聖典的預言者の模範となった。だから「預言者の学校」とも呼ばれる。信仰の目から見ると中央聖書学校も

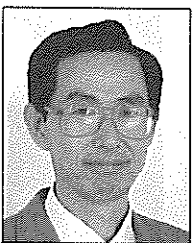
「預言者の学校」でなければならぬ。

この世の中でペンテステ人として活きるならエリヤのように一人で活動するのはよくない。クリスチャンどうしの励まし合いが必要です。これを習うのに共同生活はとくに良い。我々が疲れたとき、試練に合ったとき、耐えられないとき友の奉仕者の助けの手を受ける訓練です。今日のバアルにひざまずかないなら、隣に立っている神の器をしって助け合う事ができなければならぬ。確かに、我々の助け主は主なる神しかない。しかし、キリストの体としての一員であるから伝道の中の友が必要です。そうすると、我々の奉仕に自分を一〇〇%いられる。奇跡と預言は神のみ手の中にあると言う事はたしかです。しかし、迫害の中で続ける事は「預言者のとがら」の一員である事は重要です。霊的戦争の中で「預言者の仲間」である事は内戦がなく、戦いは暗闇の王国に向けたものであると気がつく。

僕は中央聖書学校がこのようである事を願う。これが僕の感想。信仰の目で見えた感想。

講師 一年生

菊地 和博師



ハレルヤ。主の聖名を崇めます。

この春から中央聖書学校の講師として奉仕させて頂くことになりました。私は本校の二十四期生ですので、卒業してもう二十年近くになります。

私は牧師の家庭に生まれ育ちましたので、信仰的環境には比較的恵まれていました。十五才の時に受洗し、その後、毎年のように全国大会（当時は駒込で毎年持たれていました）に参加しました。参加するたびに、当時の総理・校長であられた弓山先生から強い献身の勧めがあり、献身を表明して立ち、祈っていただきました。こうして高校の頃から、将来は献身して伝道者になろうと思っていました。

高校卒業後、大学に入学しましたが、当時は大学紛争の真最中で、勉強らしい勉強はあまりできませんでした。それでも大学院まで進ませてもらいました。大学を卒業し、伝道者になるための訓練を受けるため、中央聖書学校に入学しました。共同生活を通し、また先生方から多くのことを教えられました。CBI卒業後、米国留学の道が開かれ、カリフォルニア州パサディナにあるフラー神学校で四年間学ばせて頂きました。生活のためのアルバイトと語学のハンディをかかえて苦勞もありましたが、何とか卒業することができました。

卒業後、郷里の浜松の地に導かれて十四年になります。この間の伝道・牧会を通して様々なことを主から教えられてきました。学んだこと生かした部分もありますが、いまだに生かしていない部分も多くあります。そしてあらためて、伝道の現場に役立つ学びということを考えさせられています。何もできない者ですが、聖書学校で教えさせて頂くことにより、日本宣教の小さな一翼を担わせていただけることを感謝しています。お祈りの端に加えていただければ幸いです。



6ページ 右上ハイキング 右下大雪一番 中上ギリシャ語 中下チャペル
左上チャペル 左下組織神学
7ページ 右上昼食時の神学論 右下作業を終って中上ランチアワー
中下ピクニック 左上図書室 左下ディダスコ（私は教えています）

中央聖書学校第五期の卒業生で、日本における奉仕の後、渡米され、ハワイ大学においてB.A., M.A. を取得、さらにマニラのCentro Escolar University (東南アジアの研究でPh.D. (哲学博士) を取得された。また長年の間、フィリッピン(Far East Advanced School of Theology (現 Asia Pacific Theological Seminary) において教鞭をとられ、学監として奉仕された。その後、シンガポールのBible Institute of Singapore の学長を勤められた。

専門分野は社会学で、同師はアメリカにおけるペンテコスト学会、宗教社会学会、また、日本福音主義神学会の会員でもある。



新任教師の顔ぶれ

北野耕一師

ダビデ・ハイムス師

Robert Hynes 宣教師の息子で、日本で生まれ、日本で育った関係で日本語はもちろん、日本人の心をよく知り、キリストと日本を愛してやまず、このたび宣教師として来日された。

Bethany Bible College) B.A., Princeton Theological Seminary) M.Div., T.M. を取得された。その後、マサチューセッツ州ベルモントのケンブリッジ・クリスチャン・センター、ニュージャージー州ベントン第一アッセンブリー教会、カリフォルニア州キャンベルのエバンジェル・アッセンブリー教会、サンノゼの日本人アッセンブリー教会で牧会に当られ、また、マサチューセッツ州ベルモントのGordon-Conwell Theological Seminaryの分校にて教えられた。同師はDelta Epsilon Chi Honor Society のメンバーで、とくに旧約聖書を学ばれ、ヘブル語、ギリシヤ語、アッカド語、アラム語にも精通され、また、Seminary 在学中に与えられた旧約聖書研究者に贈られる Benjamin Stanton 賞を受けられた。

中央聖書学校第二四期の卒業生で、教団顧問であり戦前、戦後にわたって長年、浜松で伝道牧会に当られた菊地隆之助先生のご子息である。

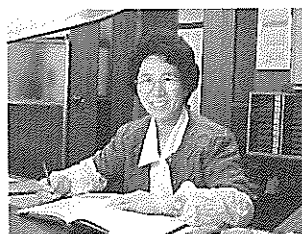
名古屋大学に学ばれ、更に同大学院に進まれて哲学を専攻され、アウガスチヌスの研究において文学修士を修められた。その後、献身されて中央聖書学校で学ばれ、卒業後はさらに勉学のために渡米、Fuller Theological Seminaryで聖書学、語学を修められ、M.Div. (神学修士) を取得された。帰国後は父の牧会される浜松教会で副牧師として、奉仕されたが、隆之助師が浜松北教会を開拓されるに当たり、浜松教会の牧師となり現在に至っている。

なお、教団日曜学校部長の要職にもあり、またその他の働きにおいても活躍しておられる。

菊地 和博師

お願い

日本アッセンブリー教団に関する古い資料(特に戦前・戦後の教団創立時代印刷物や一九五〇年一九六〇年代の刊行物)を中央聖書学校の図書室に寄贈して下さいの方を求めています。コピーでも結構です。



新任事務員さん御紹介

「おはようございます」と、いつも明るい笑顔で声を掛けて下さるのは、今年の一月から学校事務をして下さっている田中久美子先生です。先生は吉祥寺教会の牧師夫人であり、三人の御子さんのお母さんです。学校では、いつも私達学生を暖かく見守って下さっているそんな愛にあふれた先生です。

関東分校学生募集

関東分校では教会における信徒リーダーを目指す人々を募集しています。夜間の学びであるため、働きながら基礎的な学びをすることができ好評です。尚、聴講制度も併設しています。

科目 教理、旧約概論、新約概論、個人伝道法

授業日 毎週火曜日、金曜日
午後6時30分～9時30分

受講資格 洗礼を受けている忠実な会員で所属教会の牧師の推薦が必要

受講手続 本校に願書を請求のこと

小さい関西分校

杉本俊輔

関西教区の多くの教会の祈りと期待によって始まった関西分校は、いよいよ、第六年目に入りました。この間神の助けと導きをいただきながらの四年間は、まことに素晴らしい時でした。

神よりの恵みと励ましが必要ならば、たとえ一週に二日間、夜の六時から九時三十分までの小さい短かい学びの時であっても継続は不可能であつたでしょう。

ある人は、三時間半の学びのために往復六時間をかけての通学は努力と忍耐の時でした。疲れと睡魔との戦いの人もありました。これをのり越えて終了出来たのも、学びの教授内容が魅力あつたからか? それとも、もっと大切なことは、聖霊のみ助けと、多くの兄弟姉妹の援助があつたから出来たこととです。

すでに、三人の本科生を本校に送り、今年は一人の本科生と十一人の聴講生を迎えることが出来ました。

本科生は勿論のこと、教会での奉仕を充実させ、神と人にと仕えることを願って学ばれる聴講生は、必ず、分校

生活に満足されるでしょう。

ここで今年の分校の教室を紹介しましょう。

鳴尾純福音教会(西宮市)の三階多目的ホールが教室です。教科は四つ、三人の教師が受け持ってくれます。

火曜日は二教科、第一時限目は、教会史、久保田寛先生の担当で、教会の今日までの歩み、初代教会の生成を概観し、ローマ教会の成立、その思想的変遷と教理の確立を学び、更に宗教改革に至るローマ教会の変遷と中世の教会とその思想を学びます。

第二時限目は「伝道学Ⅱ(教会伝道法)」津村昭二郎先生、教会の宣教の使命とその本質を正しくとらえて、本来的伝道のあり方を追及し、多様化する社会を理解しつつ具体的な方法論を学びます。

金曜日二教科、第一時限は「教会概論」杉本俊輔先生、教会の基礎概念を整理し、牧師と信徒の、教会における根本的理解、その使命とあり方、牧会の実際のケースを通して学習します。第二時限目は「聖書地理」津村昭二郎

関西分校学生募集

関西分校は関西地区に先立って1987年4月に開校され、本年は6年目を迎えています。いよいよ充実した学びを提供しています。クラスにおける学びは、直ちに教会において実際に用いられ、多くの方々が生かされています。

科目 教会史・聖書地理・教会概論
伝道学・伝道法

授業日 毎週火曜日、金曜日
午後6時～9時35分

聴講申請書は鳴尾純福音教会内
関西分校事務局へお申込み下さい。
☎0798-41-4428



先生、聖書の歴史を概観しつつ、出来事と地理を並行して学習し、イスラエルを中心に気候、風土、習慣を概観し、聖書の世界の範囲を旧約から新約のパウロの世界までを学びます。

これらの学びが必ず霊的にも知的にも大きな力となって、それぞれの教会で生かされ燃え上がることでしょう。

関西分校は、アッセンブリー一九九九年のビジョン実現のための大きな原動力です。

中央聖書学校学生募集

中央聖書学校校長 佐布 正義

主の御声を聞いている者よ、きたれ!

入学資格………受洗後2年以上を経た忠実な教会員であること

住 所………豊島区駒込3-15-20

TEL. 03-3918-4925

※入学案内は所属教会牧師にお申し出下さい。